



ハンディ4 人見知り弁護士
「ニュー・セント」のクラッチャン西村國彦さん

ゴルフの旅人デビュー！

39歳からゴルフを始めたゴルファーが
シングルになって、そのうえ難コースの
クラッチャンになったのも凄いが
その人の職業が弁護士と聞いて
なおのこと驚いてしまう。

その西村國彦さん、趣味が高じて
ゴルフの世界を究めるべく
多忙な仕事の合間をぬってゴルフの聖地、
英国、リンクスに旅立った。
走破した距離は22日間、24000キロ
自分の足で訪ねた聖地はどうだったのか
見て、聞いて、回って、わかった
感動の旅日記がスタート！

撮影・岡沢裕行

ユーレカ：我、発見せり、
のギリンセ語

ilka



この人、本業・弁護士
昨年行われた難易度が
高いことで知られる
ニュー・セントアンドリュース
GCジャパンの
クラチャンを獲得。



にしむらくにひこ ● 昭和
27年生まれ。東京大学法
学部卒。東京弁護士会登
録・弁護士。ゴルフプレ
ーヤーの立場からバブル
崩壊後の新しいゴルフ場
再生について活躍。オー
ガスタ、バインハースト
など米国のコース研究に
もいそしみ、最近ゴルフ
ジャーナリストの肩書
も持つ。

ウェールズから北の果て ドーノックまでの22日間2400km



なんと賢沢!
名コースが連なる
リンクス街道を
走る

タイガーが
優勝した
全英オープン
観戦

EW

米国で100コースを回り
いま、ゴルフの旅人として
英国のリンクスに立つ

成田を発ったのが7月1日。ロンドンの190°西、ブリストルからウェールズ経由でセント・アンドリュースに着いたのが11日。オールドコースで1週間、J・ニクラスとタイガーの新田交代をこの目で確かめた。7月18日、いよいよスコットランドのリンクスに挑戦開始だ。その3日後、朝焼けを浴び、私は噂に聞くクルードウンベイを見渡す丘の上に行った。

お酒は飲めないし、カラオケも駄目。パーティは白けて疲れるばかりで営業相手の私。39歳の冬、友達に誘われ、うっかりゴルフクラブを握ってしまったばかりに、すっかり世界が変わってしまった。人見知りで話のおもしろくない弁護士の私に、なんとゴルフの講演依頼まで来るようになったが、本当に好きなことなら人前でも話ができるものだ。

ここまでゴルフに魅入られれば、世界を究めないといけないと思いついたのが7年前。土地勘のあったアメリカ西海岸のサイプレスポイントを訪れた時、私は「ゴルフの旅人」になった。ナビゲーターは「ゴルフ五番目の愉しみ」著者の大塚和徳さんだ。そして今、私は真のリンクスを探すためスコットランドにいる。

砂山とラフと強風…
ようこそリンクスランドへ
大地と風がささやいた

駐車場で車を降りたとたん、同行者

アバディーンの隠れた名リンクス

「クルードウンベイは
何度やっても飽きない」が
わかった

は皆同時に「うわー」と歓声をあげた。高台のクラブハウス脇から見下ろす雄大なコースと、その向こうに見える海は、幻想的な世界を作り出していた。

だがコースに出れば、フェアウェイの両サイドにそびえ立つ砂丘に長く生い茂る草々が風になびき、実際の風の倍以上にプレッシャーを感じる。前半連続バーディーで気分良くスタートした私も、いつの間にか、敗残兵になっていた。

極め付きは15番、左にドッグレッグしたブラインドのパー3(239yd)。絶壁の上から、逆風について見えないグリーンに打ち下ろすこのホールでは、当然のことのように、ボールは左の砂山の深いラフに吸い込まれる。

「ようこそ、リンクスランドへ」。大地と風がそうささやくのが聞こえた。悔しいけれど、真のフェードボールを打てるようになったらまた来ようと思ふやきながら、T・ワトソンに「宝石」と言わしめたコースを後にした。



1 コースの近くに住む家族。モンティとC・モンゴメリーのファンだった2 天気がいいとヤードージ・ブックを読む余裕もあるのだが、ラウンド中これを使いこなすのは結構大変。3 ブラインドホールのベル。ベルの形はコースによって様々だ4 眺めのすばらしい高台のクラブハウス5 メンバーのおじさん。週3回はゴルフをやっているという



クラブハウスからはるかに番グリーンと7番ティを望む。風になびく砂丘の草の美しさは格別

世界中の人が見ている テレビ映りが リンクスを管理する

ジョージ・ブラウンは筋金入りのター
ンペリーのグリーンキーパーのボスだ。
全英では、選手たちが1番ティをス
タートすると、バンカーレーキを持ち、
揃いのポロシャツを着たスタッフが後
に続く。彼らは英国全土から集まった
キーパーのボランティアなのだ。全英
会場で会ったキーパー界のドン、ジョ
ージに早速話を聞いてみた。

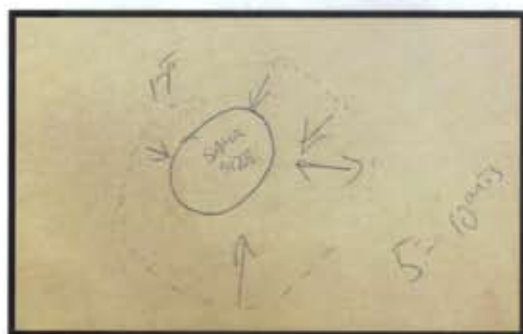
—— オールドコースは素晴らしい。でも
きれいで感ぜられたが、どうだろう？
ジョージ・リンクスというのには神が造
ったコースといわれるが、やは
り年月がたつと、壊れやすくな
って来る。しかもオールドコー
スは世界中が注目するので、よ
く管理して、きれいにしておく
必要もあるんだ。

—— それにしてもバンカーの壁
は人工的にみえるけど。
ジョージ…確か112個あるバ
ンカーのうち、17番のロードバ
ンカーを含め94のバンカーの壁
を補修したはずだ。我々はこれ
をREVEET（護岸する）と言
うが、しばらくすれば角もとれ
て自然な形になるよ。

—— テレビ映りを考えるという
のは、オーガスタみたいだね。
ジョージ…全米はリンクスに憧
れ、全英はオーガスタに憧れると
いうわけではないが、これもゴル
フのグローバル化かもしれない。
—— バンカーは壁を直してきれ

セント・アンドリュースでグリーンキーパーのボスに聞いた

「最近、全英オープンのコースが きれいになったと 思うけど、どう？」



ジョージはロードバンカーが、実は点線まで広がっていると言う



「そうなんだよ。全英のコースは
いつも芝が茶色いけど
今年のセント・アンドリュースの芝は
緑が濃かっただろ」

いにしただけなのですか？

ジョージ…いや、それだけじゃないよ。
ロードバンカーなどバンカーそのもの
には手をつけてないが、バンカーを広
げたのと同じになっているはずさ。

—— どんな仕掛けをしたんですか？

ジョージ…バンカーの形や大きさをい
じらなくても、その周りのマウンドに
少し手を加えると、結果的にバンカー
が大きくなったのと同じになるはずだ。
これは私の個人的見解だが、絵（上の
写真）に書くところなるよ。

—— なるほど。バンカー周辺に落ちた
球がバンカーに入りやすくなるわけか。
と、ここで最近のようなリンクスコース
の変化についてはどう？

スプリングクラーに加え 地球温暖化の影響。 リンクスが変わっていく

ジョージ…ひと昔前までのターンペリ

ーのように、スプリングクラーを使わな
くて夏は黄色の芝だった頃がなつかし
い。今じゃリンクスでもスプリングク
ラーを使って芝はいつも青々している。
時代は変わったんだよ。

—— 3年前のミュアフィールドと違い、
オールドコースの天気は良いようだし。
地球温暖化の影響もリンクスには出て
るんじゃないか。

ジョージ…もちろん。英国では北極の
氷が溶けると確実に水没するところも
あるくらいだ。このとおり、天気も良
くなっているし、気温も上がっている。
晴天無風のリンクスと、真のリンクス
ランドではゴルフが変わるのさ。ぜひ
ターンペリーにも来てほしい。

来年ターンペリーでの再会を約して
インタビュを終了。やはりドンは、
リンクスの生き字引だった。タイガー
が17番のロードバンカーを徹底して避
け優勝したのは、衆知のとおりだ。

語り継がれるゴルフ
これが英国の伝統だ
文化の違いを痛切に感じた

日本では、ジュニアゴルフファーが親や友達とバッグを担いで夕暮れのコースに出て行く姿を見ることは少ない。が、英国では、ゴルフコースは町の中にあり、老若男女が集う。

この国では、各ゴルフ場の隣りに9ないし18ホールのサブコースをよく見る。神が創ったリンクスはオープンなのだ。アイアン1、2本とボールを入れる筒を持ち、遊び感覚で隣のコースを回っている子どもたちと何度もすれ違った。ロイヤル・ドーナツでも、A・マッケンジーのコースでも。そしてみんな楽しそうなのだ。それに引きかえ日本では、ジュニアのゴルフは気を遣うことばかり。

英国には親子何代にもつながるゴルフ環境がある。彼らは「語り継ぐゴルフ」を持っているのだ。パッティングのノウハウとともに、ゴルフ文化も次の世代に語り継がれていくのだろう。グレンイーグルスで見つけた素晴らしい親子3代ゴルフファーたちに、思わず「いつも親子3代で回るのかい」と声をかけると、4人揃って「いつもみんなややつてるよ」と底抜けに明るい。そういえば東海岸のリンクス、モントローズのパブリックコースでは、子供らと老人たちが、1ホールに数組も、ボールを転がして遊んでいた。

グレンイーグルスで素敵なゴルフファミリーを発見

「いつも親子3代で回っているのかい？」





中央が5番と11番、左奥は6番のパー3のグリーン。そこから7番への攻道は険しいが、振り返れば絶景

今年のドーノックは穏やかで
まるで米国のリゾートの
ようだった

40の手習いで始めたゴルフ。まずは良いスコアを求め、日本のいいコースを巡っているうちに、何かが変わってきた。98年、その何かを探しに旅に出ることになった。

英国でもいろいろな人と会えた。ターナーベリーのグリーンキーパー、写真家のプライアン・モーガン、次回取り上げる、アリストター・マッケンジーが最初に作ったコースと、マッケンジー信者のメンバーたちなど。

コースもいろいろなタイプのリンクスがあった。そして同じコースでも1日のうちに様相が一変することは驚きだった。1日どころか1ホール間に四季があるのだから。

しかしロイヤル・ドーノックは特別だ。全英オープンこそ行われないうが、オールドコースと並び称されるゴルフの聖地なのだ。1906年には、名勝負の舞台にふさわしくロイヤルの称号まで受けたほどのコースだ。でも今年の夏、ドーノックは、明るく穏やかで、まるでアメリカのリゾート地のようにあった。

それはアメリカの好景気と、ドーノック出身でアメリカで数百年のコースを設計したドナルド・ロスのおかげかもしれない。事実、私たちの組の後には、フロリダの名門セミノールGC（ロスの作品）から来たバスツァーの女子学生グループもいて、今やドーノックは「隠れた秘宝」で

最果ての地、ハイランドを代表するリンクス

「ロイヤル・ドーノックを 見て死ぬ」は 本当か？



憧れのドーノック併設のロイヤル・ゴルフホテル。2種の間がおすすめ

ネアーンGCのキャディが明かしてくれた

「いいキャディは みんな アメリカ人がキープ しちゃうんだよ」

最新
キャディ
事情



全米オープン直後のスコットランドのゴルフ場は、アメリカ人ゴルファーが押しかけ、名のあるコースはどこも一杯。いいキャディもいいレンタカーも、みんなアメリカ人が買い占めたのだろう、とハイランドの名門リンクス、ネアーンで見つけたキャディのスコットが言う。彼はブラッド・ファクソンのキャディもやったプロキャディだ。

確かに予約しておいても、キャディはいない。そこで自分でカートを引っ張るのがリンクスゴルフと思うようにした。だがリンクスが荒れた時、ラフでのボール探しや正確な距離を知りたいときは、いいキャディが欲しくなる。まだ、見た目で残り距離を読み切れないのだ。

そういえば旅の始めの38年、米国のサイプレスポイントで4つバーディをとれたのは、PGAプロのキャディのおかげだった。スコアにこだわるつもりはないが、リンクスでも本当のキャディとゴルフをしたくなった。スコットは、来年私のキャディをやってくれると約束してくれた。



phot・AFLD

はありえなくなかった。プレーしてみると、ロスの代表作であり今年全米開催のバインハーストNo.2の原型がここにあることがわかる。有名な14番FOX Yの壮大な砲台グリーン周り（迷うことなくバッターでアプローチだ）や、いくつものバンカーにロスを感じた。シネコックヒルズ、ナショナルゴルフリンクスなど、アメリカのリンクス風コースを見てきた者として、最北端折り返しの9番ティでは、私の旅の新しいステージ開始を予感した。



フロリダの藍ちゃん？とその仲間。コートとキャディを引き連れたい

リンクス特有のバンカー。壁の作り方に注目。ここでも整然と護岸（REVET）がなされている

